

# 北海道観光入込客数調査報告書

平成 2 1 年度

観光入込客数（実人数）.....	1 頁
------------------	-----

## 【参考】

観光入込客数（延べ人数）.....	3 頁
交通機関別来道観光客数（実人数）.....	5 頁
訪日外国人来道者数	
1 訪日外国人来道者数（実人数）.....	6 頁
2 訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）.....	8 頁

平成 2 2 年 7 月

北海道経済部観光局

# 北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

## 1 観光客入込客数調査について

本調査は、「全国観光統計基準」により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、市町村等が調査を行った結果を集計したもので、半期毎に実施しています。

## 2 調査内容

### (1) 観光入込客数

#### ア 観光入込客数【実人数】

各市町村の観光入込客数や観光動態調査などにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

#### イ 観光入込客数【延べ人数】

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。

### (2) 交通機関別来道観光客数（実人数）

交通機関（航空機、フェリー、鉄道）別の来道観光客の実人数

### (3) 訪日外国人来道者数

北海道を訪れた外国人について、宿泊施設の調査などにより推計した訪日外国人来道者数の実人数。従って、ビジネス等を目的として来道した訪日外国人も含む。

## 3 利用上の留意事項

(1) 今回の調査は、平成21年度（平成21年4月～22年3月）を対象に行っており、4・5月を「春」、6～9月を「夏」、10・11月を「秋」、12～3月を「冬」として、取り扱っています。

(2) 市町村毎の観光入込客数調査では、実人数を推計していますが、「支庁の計」、「圏域の計」は延べ人数となっています。

(3) 各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

# 観光入込客数（実人数）

## 1 総数

平成21年度の観光入込客数の総数（実人数）は、4,682万人となり、前年度の4,707万人に対し、99.5%（25万人減）となりました。

「ねんりんピック北海道・札幌2009」の開催や9月の大型連休「シルバーウィーク」、ガソリン価格の安定化や昨年3月から始まった高速道路料金の割引制度によるドライブ観光の促進などの増加要因はあったものの、新型インフルエンザの流行による旅行減と相次ぐイベントの中止、引き続き景気の低迷、航空機の減便や機材の小型化、高速フェリーの廃止、さらには夏季の天候不順による屋外観光施設への入込客や海水浴客の減少などが影響し、観光入込客数は、現行の統計基準を採用した平成9年度以降の最低となりました。

なお、道内客が前年を上回ったことに加え、冬季には中国などの訪日外国人来道者が大幅に増加するなど、明るい兆しが見られます。

## 2 道外・道内別

道外・道内客別にみると、道外客は597万人で前年度の95.1%、道内客は4,085万人で同100.1%となりました。

構成比でみると、道外客が12.8%、道内客が87.2%となっています。

## 3 日帰り・宿泊客別

日帰り・宿泊客別にみると、日帰り客は3,328万人で前年度の100.8%、宿泊客は1,354万人で同96.2%となりました。

構成比でみると、日帰り客が71.1%、宿泊客が28.9%となっています。

## 4 季節別

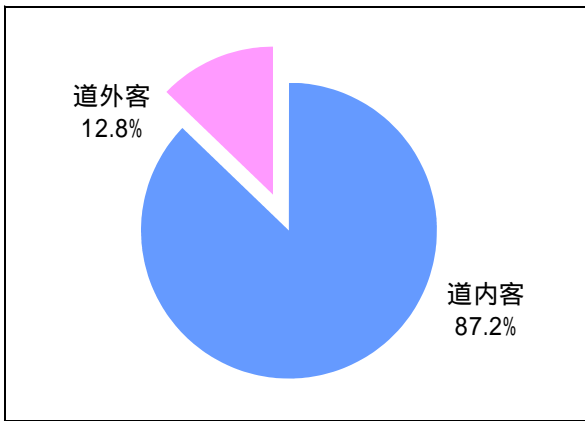
季節別にみると、春季が前年度の100.5%、夏季が同98.8%、秋季が同98.0%、冬季が同101.3%となっています。

構成比でみると、春季が15.7%、夏季が50.0%、秋季が13.4%、冬季が20.9%となっています。

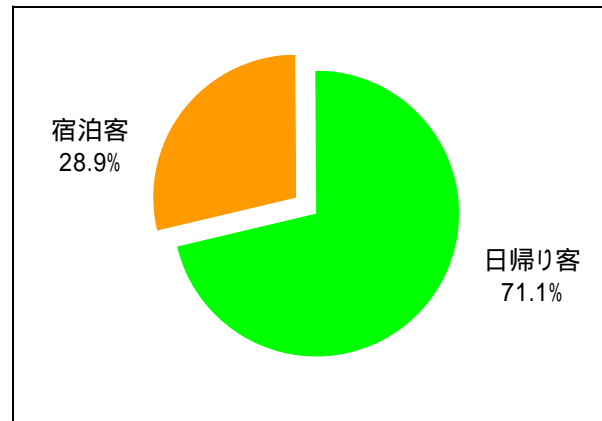
### <平成21年度 観光入込客数（実人数）>

区 分	観光入込客数	日帰り・宿泊の別		季 節 別 内 訳			
		日帰り客	宿泊客	春	夏	秋	冬
道 外 客	597万人	2万人	595万人	74万人	325万人	70万人	129万人
前年度比	95.1%	100.0%	95.0%	89.2%	93.9%	93.3%	103.2%
構 成 比	12.8%	0.3%	99.7%	12.4%	54.4%	11.7%	21.6%
うち外国人	68万人	0万人	68万人	7万人	21万人	8万人	32万人
前年度比	98.0%	0%	98.0%	71.6%	73.1%	100.0%	139.0%
構 成 比	1.5%	0%	100.0%	9.7%	31.0%	12.3%	47.0%
道 内 客	4,085万人	3,326万人	758万人	659万人	2,017万人	559万人	850万人
前年度比	100.1%	100.9%	97.1%	102.0%	99.7%	98.6%	101.0%
構 成 比	87.2%	81.4%	18.6%	16.1%	49.4%	13.7%	20.8%
合 計	4,682万人	3,328万人	1,354万人	733万人	2,341万人	629万人	979万人
前年度比	99.5%	100.8%	96.2%	100.5%	98.8%	98.0%	101.3%
構 成 比	100.0%	71.1%	28.9%	15.7%	50.0%	13.4%	20.9%

【道内・道外客別構成比】



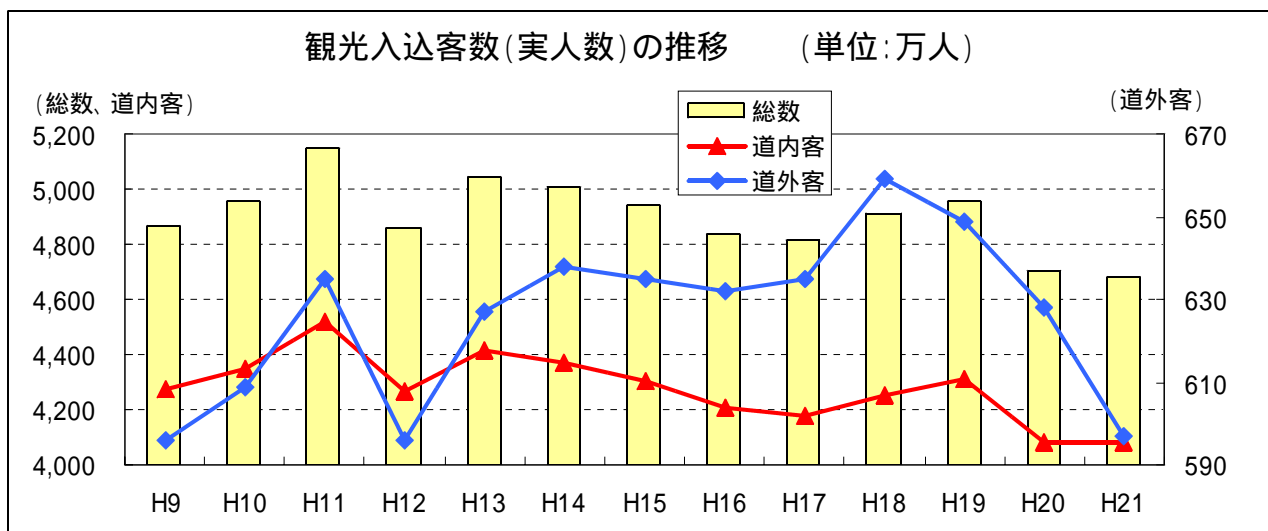
【日帰り・宿泊客別構成比】



【観光入込客数（実人数）の推移】

（上段：人数、下段：前年度比）

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		うち上期		うち上期		うち上期		うち上期
道外客	659万人	443万人	649万人	438万人	628万人	429万人	597万人	399万人
	103.8%	103.0%	98.5%	98.9%	96.8%	97.9%	95.1%	93.0%
うち外国人	59万人	29万人	71万人	34万人	69万人	38万人	68万人	28万人
	115.0%	111.5%	120.4%	115.7%	96.9%	110.8%	98.0%	72.8%
道内客	4,250万人	2,804万人	4,309万人	2,804万人	4,079万人	2,670万人	4,085万人	2,676万人
	101.7%	102.3%	101.4%	100.0%	94.7%	95.2%	100.1%	100.2%
日帰り客	3,395万人	2,554万人	3,534万人	2,507万人	3,300万人	2,378万人	3,328万人	2,393万人
	101.8%	105.0%	104.1%	98.2%	93.4%	94.9%	100.8%	100.6%
宿泊客	1,514万人	722万人	1,424万人	735万人	1,407万人	720万人	1,354万人	681万人
	102.5%	97.8%	94.1%	101.8%	98.8%	98.0%	96.2%	94.6%
計	4,909万人	3,249万人	4,958万人	3,242万人	4,707万人	3,099万人	4,682万人	3,074万人
	102.0%	102.5%	101.0%	99.8%	94.9%	95.6%	99.5%	99.2%



## 【参考】 観光入込客数（延べ人数）

### 1 総数

平成21年度の観光入込客数の総数は、延べ1億3,099万人で、前年度の98.6%（186万人減）となりました。

### 2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、前年度に比べ、十勝圏が102.9%と増加しましたが、その他の圏域では減少しました。

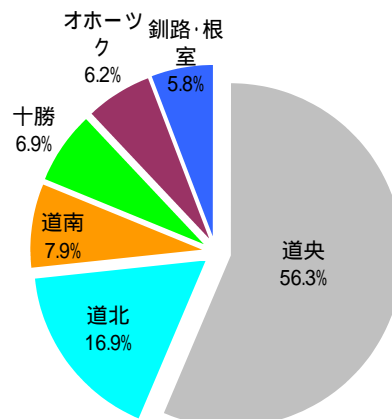
また、宿泊客延べ数では十勝圏が103.8%と増加しましたが、その他の圏域では減少し、全体でも前年度比96.0%と減少しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

道 央 圏	「さっぽろオータムフェスト」や「さっぽろ雪まつり」（札幌市）に前年を大きく上回る観光客が訪れたことや4月に開業した「花畑牧場」（夕張市）に人気が集まるなど明るい話題もありましたが、夏季の天候不順によりイベントや観光地への入込客や海水浴客が減少し、全体ではやや減少しました。
道 北 圏	平成20年10月から放映されたテレビドラマの効果（富良野市）や一部の市町村では高速道路料金割引の効果により増加したものの、観光シーズンである6、7月の天候不順の影響により観光地への入込客や海水浴客の減少により、やや減少しました。
道 南 圏	函館港開港150周年記念事業の開催や広報動画サイトの「イカール星人」がヒットしたこと（函館市）や、マグロを活用したご当地グルメ人気による入込増（松前町）など明るい話題もありましたが、函館～関西便が休止（平成20年11月）したことに加え、高速フェリーが廃止（平成20年11月）になったことや新型インフルエンザ流行による修学旅行をはじめとする団体客が減少したことなどにより減少しました。
十 勝 圏	「花畑牧場」がある中札内村の入込客数が大幅に増加したことや道の駅「ステラ ほんべつ」が4月にオープンしたこと、また、高規格道路の延伸や高速道路料金割引の効果により増加しました。
オホーツク圏	芝桜（大空町、滝上町）やチューリップ（上湧別町）の花観光などが天候不順の影響により入込客が減少したことや流水の接岸期間が短かったこと、女満別～関西便の休止（平成21年4月）の影響などから減少しました。
釧路・根室圏	中国映画の大ヒットにより中国からの観光客が大幅に増加するなど明るい話題もありましたが、景気の低迷やインフルエンザ流行の影響により道外からの団体観光客が減少したことに加え、観光シーズンである6、7月の天候不順の影響により屋外観光地の利用者の減少やイベントの中止の影響などから全体では減少しました。

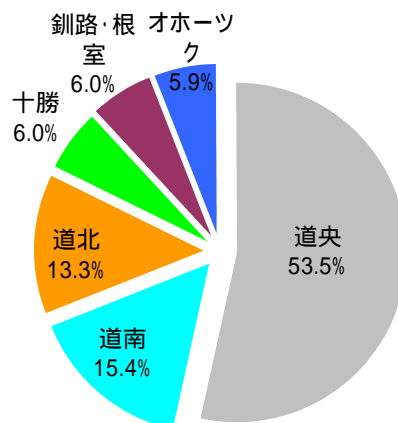
### <観光入込客数（延べ人数）圏域別構成比>

圏 域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道 央	7,370万人	99.4%	47万人	56.3%
道 北	2,219万人	98.4%	36万人	16.9%
道 南	1,035万人	95.4%	50万人	7.9%
十 勝	900万人	102.9%	+25万人	6.9%
オホーツク	810万人	96.3%	31万人	6.2%
釧路・根室	766万人	94.1%	48万人	5.8%
合 計	13,099万人	98.6%	186万人	100.0%



< 宿泊客延べ数 圏域別構成比 >

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,653万人泊	95.6%	76万人泊	53.5%
道南	477万人泊	95.7%	21万人泊	15.4%
道北	410万人泊	95.4%	20万人泊	13.3%
十勝	187万人泊	103.8%	+ 7万人泊	6.0%
釧路・根室	184万人泊	94.2%	11万人泊	6.0%
オホーツク	181万人泊	95.6%	8万人泊	5.9%
合計	3,092万人泊	96.0%	87万人泊	100.0%



3 市町村別

市町村別でみると、札幌市が1,301万人（前年度比100.1%）で最も多く、次いで、小樽市687万人（同96.2%）、旭川市637万人（同94.6%）、以下、千歳市、函館市、釧路市、登別市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数でみると、札幌市が948万人泊（前年度比97.4%）で最も多く、次いで、函館市422万人泊（同96.3%）、釧路市119万人泊（同93.5%）以下、登別市、帯広市、上川町、倶知安町の順となっています。

< 観光入込客数の多い市町村 >

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,301万人	100.1%
2	小樽市	687万人	96.2%
3	旭川市	637万人	94.6%
4	千歳市	496万人	103.3%
5	函館市	433万人	95.0%
6	釧路市	332万人	94.0%
7	登別市	302万人	98.8%
8	洞爺湖町	276万人	88.0%
9	喜茂別町	276万人	91.9%
10	帯広市	217万人	100.5%
11	伊達市	216万人	104.0%
12	上川町	211万人	91.1%
13	富良野市	196万人	104.2%
14	白老町	193万人	92.9%
15	石狩市	189万人	94.5%
16	砂川市	187万人	96.2%
17	七飯町	166万人	90.5%
18	壮瞥町	158万人	89.4%
19	二セコ町	153万人	105.4%
20	苫小牧市	152万人	108.4%

< 宿泊客延べ数の多い市町村 >

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	948万人泊	97.4%
2	函館市	422万人泊	96.3%
3	釧路市	119万人泊	93.5%
4	登別市	117万人泊	96.6%
5	帯広市	88万人泊	115.2%
6	上川町	78万人泊	92.7%
7	倶知安町	69万人泊	96.1%
8	小樽市	68万人泊	97.6%
9	北見市	66万人泊	101.4%
10	旭川市	66万人泊	95.5%
11	富良野市	64万人泊	98.4%
12	洞爺湖町	61万人泊	88.7%
13	音更町	50万人泊	100.2%
14	網走市	46万人泊	91.2%
15	斜里町	45万人泊	94.0%
16	二セコ町	39万人泊	72.7%
17	稚内市	38万人泊	95.8%
18	留寿都村	36万人泊	95.1%
19	伊達市	32万人泊	83.3%
20	弟子屈町	32万人泊	83.8%

## 【参考】 交通機関別来道観光客数（実人数）

### 1 概況

平成21年度の交通機関（航空機・フェリー・鉄道）の下り便の輸送実績を基に推計した来道観光客数は597万人で前年度の628万人に対して95.1%となっています。

季節別でみると春季は前年度比89.2%、夏季は93.9%、秋季は93.3%とそれぞれ減少しましたが、冬季は103.2%と増加しました。

### 2 交通機関別の状況

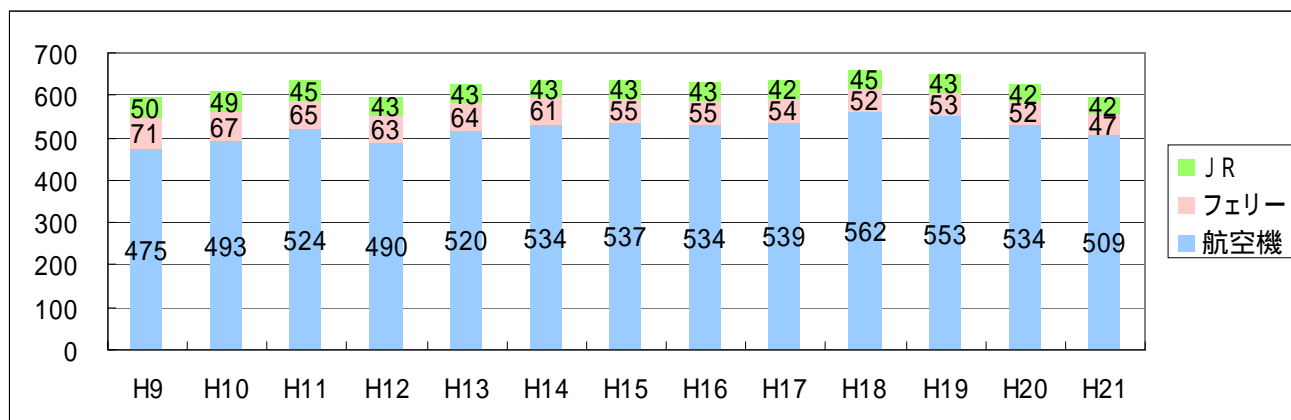
航空機	平成20年秋から引き続き不況の影響やインフルエンザの流行による旅行需要の減少に加え、減便や機材の小型化による提供座席数の減少の影響を受け、減少しました。
フェリー	平成20年秋から引き続き不況の影響による旅行需要の減少や青函高速フェリーの廃止により大きく減少しました。
鉄道	不況やインフルエンザの流行などマイナス要因もありましたが、JR東日本が発売した企画切符が好調だったことや青函高速フェリーから旅行客がシフトしたことに加え、シルバーウィーク期間が好調だったことから前年度並みとなりました。

#### <平成21年度来道観光客数（交通機関別・季節別）>

区 分		合 計	構成比	春 (4・5月)	夏 (6～9月)	秋 (10・11月)	冬 (12～3月)
合 計	来道観光客数	597万人	-	74万人	325万人	70万人	129万人
	構 成 比	-	-	12.4%	54.4%	11.7%	21.6%
	前 年 度 比	95.1%	-	89.2%	93.9%	93.3%	103.2%
航空機	来道観光客数	509万人	85.3%	60万人	274万人	60万人	115万人
	構 成 比	-	85.3%	11.8%	53.8%	11.8%	22.6%
	前 年 度 比	95.3%	-	88.2%	93.5%	93.8%	104.5%
フェリー	来道観光客数	47万人	7.9%	7万人	30万人	4万人	6万人
	構 成 比	-	7.9%	14.9%	63.8%	8.5%	12.8%
	前 年 度 比	90.4%	-	87.5%	90.9%	80.0%	100.0%
鉄 道	来道観光客数	42万人	7.0%	7万人	21万人	6万人	8万人
	構 成 比	-	7.0%	16.7%	50.0%	14.3%	19.0%
	前 年 度 比	100.0%	-	116.7%	105.0%	100.0%	88.9%

#### 【交通機関別来道観光客数の推移】

（単位：万人）



## 【参考】 訪日外国人来道者数

### 1 訪日外国人来道者数（実人数）

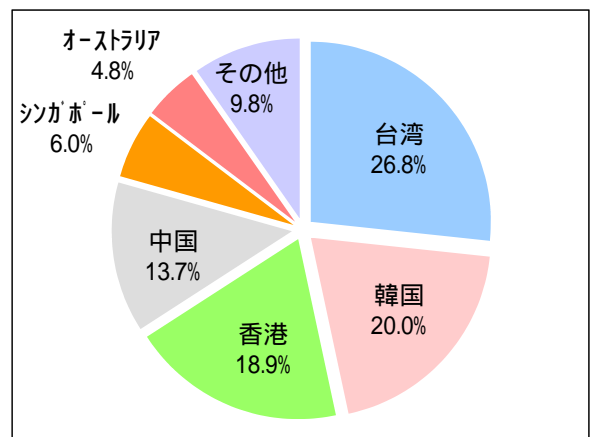
#### (1) 概況

平成21年度の訪日外国人来道者数は、実人数で67万5,350人となり、前年度の68万9,150人に対し、98.0%とやや減少しました。上半期は、新型インフルエンザの流行や世界的な不況や円高などの悪条件が重なり、大幅な減少となりましたが、下半期は各国・地域の景気回復により訪日旅行需要が回復し、大幅に増加しました。

#### (2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は、60万2,100人で前年度の60万8,300人に対し、99.0%とほぼ前年度並みとなりました。

国・地域別で見ると、台湾が18万850人（前年度比79.5%、構成比26.8%）と最も多く、次いで、韓国が13万5,300人（同97.3%、20.0%）、香港が12万7,550人（同101.2%、18.9%）、中国が9万2,700人（同195.6%、13.7%）、シンガポールが4万450人（同89.3%、6.0%）、オーストラリアが3万2,100人（同109.0%、4.8%）の順となっています。



台湾	5月以降の新型インフルエンザの流行や対円での台湾ドル安などによって日台間の往来者が減少したことに加え、8月に台湾を直撃した大型台風が過去50年で最大級の被害をもたらし、自粛ムードから旅行需要が冷え込んだこともあり、年度前半は前年比で約4割減少しました。その後、景気が回復しつつあり、外国旅行需要にもプラスに作用したことから、冬季には約2割増となったものの、通年では大幅に減少しました。
韓国	年度当初は、景気の低迷と物価の上昇、対円でのウォン安、新型インフルエンザの流行とマイナス要因が重なり、前年比でほぼ半減であったが、夏場の需要期からマイナス要因が改善し、春以降やや揺り戻し、その後安定したウォン相場への心理的な慣れも見られ、秋季では微減にまで回復しました。 さらに冬季には、一部道内との直行便の再開などのプラス要因のほか、前年の落ち込みの反動もあって、ほぼ倍増となり、通年ではほぼ前年度並みに回復しました。
香港	平成20年秋には新たなエアラインの新千歳就航があったほか、レンタカー利用など個人客の旺盛な旅行ニーズに支えられ、世界的に景気低迷の中にあっても、春から秋にかけての来道者数は比較的小幅の減少に止まりました。その後、国内の景気が回復しつつあり、外国旅行需要にもプラスに作用したことなどから、冬季には前年比約3割増となり、通年では前年度とほぼ同程度となりました。
中国	国内景気的好調維持を背景に、世界的に旅行需要が低迷する中、主要市場で唯一の拡大市場。本道の自然や温泉などが人気であるほか、道東を舞台とした中国映画の大ヒットを背景とした北海道ブームも継続しており、また、7月に一部富裕層に訪日個人観光ビザが解禁されて以来、個人の旅行形態による訪日旅行需要が創出されるなど、通年では倍増となりました。
シンガポール	5月以降の新型インフルエンザの影響や、国内経済の低迷と先行き不透明感から外国旅行需要が減少したことなどから訪日旅行が極端に落ち込み、年度前半は前年比で4割以上減少しました。その後、国内景気が回復に向かい外国旅行の負担感が和らぎつつあることなどから、冬季には前年比約2割増となったものの、通年では約1割減となりました。
オーストラリア	世界的な不況や対円の高ドル安の影響で、遠距離の外国旅行が手控えられ、春から秋にかけては対前年比1~2割減少しましたが、前年、景気低迷の影響で落ち込んだ訪日スキー旅行需要が、年度後半の景気回復、高ドル高などにより回復し、全体の9割以上を占める冬季の来道者数が増加したことから、通年では約1割の増加となりました。



<平成21年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人、%)

区分		アジア								
		中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	その他	アジア計
春季 (4・5月)	21年度	7,900	10,700	24,500	11,100	4,000	750	650	1,000	60,600
	20年度	4,850	19,700	39,100	11,350	5,950	1,550	400	1,200	84,100
	前年度比	162.9	54.3	62.7	97.8	67.2	48.4	162.5	83.3	72.1
夏季 (6～9月)	21年度	25,300	54,500	53,550	47,850	7,600	1,600	1,450	2,650	194,500
	20年度	14,100	76,500	93,900	57,600	13,600	1,800	1,100	3,550	262,150
	前年度比	179.4	71.2	57.0	83.1	55.9	88.9	131.8	74.6	74.2
秋季 (10・11月)	21年度	15,350	13,000	26,350	13,100	5,800	1,000	750	1,450	76,800
	20年度	7,600	14,000	30,150	13,800	6,700	3,000	450	1,150	76,850
	前年度比	202.0	92.9	87.4	94.9	86.6	33.3	166.7	126.1	99.9
冬季 (12～3月)	21年度	44,150	57,100	76,450	55,500	23,050	5,050	3,450	5,450	270,200
	20年度	20,850	28,900	64,450	43,250	19,050	3,950	1,850	2,900	185,200
	前年度比	211.8	197.6	118.6	128.3	121.0	127.8	186.5	187.9	145.9
合計	21年度	92,700	135,300	180,850	127,550	40,450	8,400	6,300	10,550	602,100
	20年度	47,400	139,100	227,600	126,000	45,300	10,300	3,800	8,800	608,300
	前年度比	195.6	97.3	79.5	101.2	89.3	81.6	165.8	119.9	99.0

		ヨーロッパ		北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計
		ロシア	その他	米国	カナダ			オーストラリア	その他		
春	21	600	1,050	1,600	300	100	0	400	100	450	65,200
	20	900	1,600	1,750	200	100	0	500	50	1,800	91,000
	比	66.7	65.6	91.4	150.0	100.0	0	80.0	200.0	25.0	71.6
夏	21	1,950	3,800	4,150	700	250	300	1,000	600	2,100	209,350
	20	3,500	5,100	6,650	1,100	500	350	1,250	350	5,400	286,350
	比	55.7	74.5	62.4	63.6	50.0	85.7	80.0	171.4	38.9	73.1
秋	21	800	1,350	2,050	300	50	100	650	250	1,000	83,350
	20	1,050	1,250	2,150	250	50	50	700	100	900	83,350
	比	76.2	108.0	95.3	120.0	100.0	200.0	92.9	250.0	111.1	100.0
冬	21	1,700	5,000	4,900	700	100	50	30,050	1,700	3,050	317,450
	20	1,450	4,550	3,800	550	200	100	27,000	850	4,750	228,450
	比	117.2	109.9	128.9	127.3	50.0	50.0	111.3	200.0	64.2	139.0
計	21	5,050	11,200	12,700	2,000	500	450	32,100	2,650	6,600	675,350
	20	6,900	12,500	14,350	2,100	850	500	29,450	1,350	12,850	689,150
	比	73.2	89.6	88.5	95.2	58.8	90.0	109.0	196.3	51.4	98.0

【外国人来道者数(実人数)の推移】

(上段:人数(人) 下段:前年度比(%))

国名等	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		
	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	うち上期	うち下期	
アジア	中国	15,650	7,050	17,350	7,100	26,950	10,650	47,400	18,950	92,700	33,200
		129.9	142.4	110.9	100.7	155.3	150.0	175.9	177.9	195.6	175.2
	韓国	70,050	44,400	133,850	69,750	169,300	94,350	139,100	96,200	135,300	65,200
		109.7	103.9	191.1	157.1	126.5	135.3	82.2	102.0	97.3	67.8
	台湾	276,800	149,950	267,900	150,250	277,400	142,300	227,600	133,000	180,850	78,050
		132.7	149.7	96.8	100.2	103.5	94.7	82.0	93.5	79.5	58.7
	香港	86,500	37,600	86,050	38,750	108,000	53,150	126,000	68,950	127,550	58,950
		104.5	95.4	99.5	103.1	125.5	137.2	116.7	129.7	101.2	85.5
	シンガポール	11,800	5,900	18,950	7,400	37,150	15,000	45,300	19,550	40,450	11,600
	196.7	310.5	160.6	125.4	196.0	202.7	121.9	130.3	89.3	59.3	
マレーシア	-	-	-	-	4,550	1,550	10,300	3,350	8,400	2,350	
	-	-	-	-	-	-	226.4	216.1	81.6	70.1	
タイ	-	-	-	-	2,150	550	3,800	1,500	6,300	2,100	
	-	-	-	-	-	-	176.7	272.7	165.8	140.0	
その他	5,650	2,400	10,350	4,000	7,300	3,750	8,800	4,750	10,550	3,650	
	107.6	123.1	183.2	166.7	70.5	93.8	120.5	126.7	119.9	76.8	
米国	8,750	4,550	9,700	5,300	10,850	5,000	14,350	8,400	12,700	5,750	
	96.2	105.8	110.9	116.5	111.9	94.3	132.3	168.0	88.5	68.5	
ロシア	5,900	3,700	5,850	3,400	6,050	3,550	6,900	4,400	5,050	2,550	
	88.1	88.1	99.2	91.9	103.4	104.4	114.0	123.9	73.2	58.0	
オーストラリア	18,900	650	22,950	900	33,350	1,250	29,450	1,750	32,100	1,400	
	129.0	108.3	121.4	138.5	145.3	138.9	88.3	140.0	109.0	80.0	
その他(不明含む)	13,650	7,700	17,700	7,300	27,900	9,350	30,150	16,550	23,400	9,750	
	75.4	69.7	129.7	94.8	157.6	128.1	108.1	177.0	77.6	58.9	
合計	513,650	263,900	590,650	294,150	710,950	340,450	689,150	377,350	675,350	274,550	
	120.3	124.9	115.0	111.5	120.4	115.7	96.9	110.8	98.0	72.8	

## 2 訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）

### (1) 国・地域別

平成21年度の訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）は、197万9,431人泊で、前年度比94.8%と減少しました。

### (2) 圏域別

圏域別で見ると、道南圏域は大幅に増加しましたが、その他の圏域において、前年度比で減少しました。

道央圏が141万7,767人泊と最も多く、次いで道北圏、道南圏、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の順となっています。

### < 圏域別訪日外国人来道宿泊延べ数 >

（単位：人泊、％）

圏域	ア ジ ア							
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	その他
道南	11,328	32,198	74,401	10,132	5,864	3,264	1,203	1,548
道央	186,708	174,796	342,490	328,580	98,222	18,960	17,318	31,219
道北	17,500	10,446	68,517	61,353	24,541	3,584	2,989	2,472
オホーツク	6,482	5,876	9,231	13,210	2,343	1,318	686	534
十勝	4,272	3,190	42,383	14,205	7,882	1,842	209	503
釧路・根室	13,894	4,298	27,080	8,675	5,725	1,157	251	1,252
合計	240,184	230,804	564,102	436,155	144,577	30,125	22,656	37,528

圏域	ヨ ー ロ ッ パ					北 米	
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他	米国	カナダ
道南	418	308	210	177	1,021	2,941	370
道央	9,374	9,297	3,429	4,025	12,097	35,747	5,615
道北	1,454	1,122	755	521	1,928	3,246	625
オホーツク	421	158	427	210	472	1,237	145
十勝	60	59	205	147	615	506	156
釧路・根室	2,864	377	488	632	992	1,528	125
合計	14,591	11,321	5,514	5,712	17,125	45,205	7,036

圏域	中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計	20年度	前年度比
			オーストラリア	その他				
道南	126	2	1,009	339	1,913	148,772	68,815	216.2
道央	1,170	719	114,152	7,467	16,382	1,417,767	1,533,484	92.5
道北	301	652	9,742	1,266	2,802	215,816	249,948	86.3
オホーツク	67	94	449	431	433	44,224	52,256	84.6
十勝	218	34	4,186	39	278	80,989	107,970	75.0
釧路・根室	31	132	514	122	1,726	71,863	75,836	94.8
合計	1,913	1,633	130,052	9,664	23,534	1,979,431	2,088,309	94.8

### (3) 市町村別

市町村別で見ると、札幌市が64万9,210人泊（前年度比84.7%）で最も多く、次いで登別市が17万7,346人泊（同84.4%）

倶知安町16万7,646人泊（同120.5%）函館市13万1,743人泊

（同239.3%）洞爺湖町10万4,868人泊（同106.5%）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	564,102人泊	79.2%
2	香港	436,155人泊	101.6%
3	中国	240,186人泊	194.8%
4	韓国	230,804人泊	83.9%
5	シンガポール	144,577人泊	87.9%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	649,210人泊	84.7%
2	登別市	177,346人泊	84.4%
3	倶知安町	167,646人泊	120.5%
4	函館市	131,743人泊	239.3%
5	洞爺湖町	104,868人泊	106.5%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	88,990人泊	156.5%
2	洞爺湖町	32,302人泊	302.3%
3	壮瞥町	16,109人泊	221.6%
4	登別市	14,028人泊	165.6%
5	釧路市	12,949人泊	386.1%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	69,737人泊	66.5%
2	登別市	42,786人泊	89.3%
3	函館市	21,334人泊	323.7%
4	洞爺湖町	15,938人泊	172.0%
5	壮瞥町	14,609人泊	87.0%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	164,881人泊	71.0%
2	登別市	79,175人泊	83.1%
3	函館市	73,685人泊	353.7%
4	上川町	52,501人泊	73.0%
5	洞爺湖町	32,192人泊	69.8%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	186,210人泊	90.5%
2	倶知安町	36,712人泊	200.7%
3	登別市	21,897人泊	74.4%
4	小樽市	21,180人泊	119.9%
5	二セコ町	15,802人泊	183.1%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	42,113人泊	82.1%
2	上川町	12,647人泊	80.2%
3	倶知安町	12,318人泊	157.1%
4	登別市	10,212人泊	62.0%
5	洞爺湖町	9,134人泊	86.5%

【ロシアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	6,095人泊	78.8%
2	小樽市	1,400人泊	72.0%
3	根室市	1,362人泊	76.1%
4	釧路市	1,107人泊	446.4%
5	稚内市	1,062人泊	98.5%

【アメリカの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	18,875人泊	94.6%
2	千歳市	6,582人泊	155.9%
3	倶知安町	3,275人泊	114.3%
4	二セコ町	2,842人泊	90.9%
5	函館市	2,815人泊	80.2%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	91,854人泊	109.8%
2	札幌市	7,534人泊	96.9%
3	富良野市	7,519人泊	67.1%
4	留寿都村	6,713人泊	106.4%
5	二セコ町	5,330人泊	152.4%

## 北海道観光入込客数調査報告書 [平成21年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop.htm>

---

平成22年7月

北海道経済部観光局連携推進グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号 011-231-4111 内線 26-568

ダイヤルイン 011-204-5304

F A X 011-232-4120

---